

# 応募申請用紙

(整理番号: 事務局記入欄)

企業名 団体名等	江東区立八名川小学校	記入年月日	平成29年10月23日
住所 TEL/FAX メールアドレス	〒1350007 東京都江東区新大橋3-1-15 電話03-3633-5428 メール:t-tejima@koto-edu.jp	担当者氏名 (所属含む)	江東区立八名川小学 校長 手島利夫
表彰の対象となる 応募活動の要旨	<p>①ユネスコスクールの仲間を1000校(全国の3%)以上に増やし、ESDの教育理念を共有し、具体的な指導方法をとともに開発し実践を通じて広め、その成果を様々な形で国内に発信し続け、ESDの教育観を教育界に浸透させてきた。</p> <p>②教科等の学習を統合的につなぐESDカレンダーや、主体的で対話的な学習指導方法などをユネスコを通じて世界にも発信し、教育の方法論からも国際的な連携を深め、持続可能な世界の実現に向けて取り組んできた。</p>		
	応募活動が貢献するSDGs目標 (複数回答可)	4 ESD「質の高い教育をみんなに」を窓口としながらも、その他16項目全ての目標に全校で取り組んでいます。	

## 表彰の対象となる応募活動の概要

### 表彰の対象となる応募活動の目的

日本と世界における学校の教育力を活用して、持続可能な世界の実現に大きな貢献をすること。そのために以下の2点を下位目標として設定し、取り組んできた。

①「持続可能な世界の実現」という課題意識を多くの人と共有し、ESDの推進拠点であるユネスコスクールの仲間を1000校以上に増やし、教育理念や具体的な指導方法の開発と発信を通じて実践の共有を図り、その成果を通じて国の教育政策の指針である学習指導要領に「持続可能な開発のための教育」という視点を加えるよう、編成に働きかけ、教育改革の推進に貢献すること。

②全ての教科・領域の学習を【環境・多文化(国際)理解・人権・学習スキル】という視点から統合的・横断的につなぐESDカレンダーを活用し、【子どもの学びに火をつける】主体的・対話的な学習指導方法などと併せて、国内だけでなくユネスコを通じて世界に発信し、持続可能な社会を目指す教育者や関係機関・企業やNPO等との連携を深め、SDGsを達成すること。

### 表彰の対象となる応募活動の内容

江東区立八名川小学校では、教育の質の向上と内容の充実を図り、子どもたちが自覚をもって主体的に、しかも楽しげに学び合う姿の実現と、教員が自信と誇りをもって指導の改善に取り組む姿を大前提にして、次のようにESDの普及活動に取り組んでいます。

① ユネスコスクール持続発展教育(ESD)大賞の受賞校として、毎年ユネスコスクール全国大会で、実践発表を重ねるとともに、様々な指導や助言の場をいただいている。その際、全参加者にESD推進に関する最新情報を入れたCD等の資料を毎年配付し続け、数千枚に及んでいる。

② 平成22年以来、校内研究活動を常に公開するとともに、毎年多くの教育関係者と「ESDパワーアップ交流会」を開催し、相互発表の場を設け、実践的な研究開発と交流を進めている。

③ 「ESD円卓会議」にも教育者の代表として参加し資料の提供をさせていただいている。本校の実践を踏まえてESDの推進施策について具体的な提言を重ねてきた。また、その成果を踏まえて、2014年に開催されたユネスコESD世界会合にも日本の代表として参加させていただき、ジャパンレポート等でESDカレンダーの活用について紹介した。

④ 文部科学時報(No.1608)、国立教育政策研究所(学校における持続可能な開発のための教育に関する研究報告書)、総合教育技術(2013、11、2014、05)、教育ジャーナル(2014、05)、教育新聞社におけるESD推進に関する15回に及ぶ連載記事、都政新報社・毎日新聞社等からの発信、日立・環境研究(ESDの国際的視点からの取り組み最前線)、教育調査研究所、BIOCITY誌、等々を通じて、国内に向けてESD推進を働きかけ続けてきた。その成果は、徐々に広がり、参議院予算委員会で文部科学大臣がESDカレンダー普及を約束したり、NHKやBSテレビ朝日の番組での報道等々を通じて、ESDへの認識と普及が進んだ。それらの積み重ねと、多くの方々の取り組みと相まって、中央教育審議会での論議を踏まえた学習指導要領の前文が新たに示され、「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されることとなった。

⑤ SDGsについても、ESDとの関係性を明確にし、学校教育の内容と関連づけられるよう、SDGs実践計画表を開発し、学習指導要領のカリキュラム・マネジメントと関連づけた普及を推進している。このことでどの学校でもSDGsに取り組みやすくすることができると考えている。

## 表彰の対象となる応募活動の自己評価

(注)それぞれの様式は必ず1ページ以内に納めるようお願いします。

① (概要)SDGs実践計画表を作成してみて、本校ではSDGsで示されている全ての目標に向かって、意図的計画的な教育活動(ESD)が、全学年の教育活動を通じて実践できている。 ② 7年間、全校を挙げてESDに取り組んできた成果の一端が、「児童の学力の向上」としても明確に現れている。文部科学省の全国学力学習状況調査で、「問題解決能力」に繋がる国語と算数の活用能力(Ｂ問題)の得点が、この7年間に国語で15.17%、算数で18.22%と驚異的に上昇している。

③ ユネスコスクールの加盟校も1037校に増え、未加盟校でもESDやSDGsへの関心が急速に高まっている。しかし、各校で取り組まれている実践には偏りや形骸化しているものもあり、また、何をどのように取り組んだら良いか困っている学校も多い。本校としてできる限りの支援や協力を惜しまずに提供していく必要があると思う。まだまだ、その役割は終わらないと考えている。

(普遍性)ESDカレンダーは国内はもとより、英語・中国語・韓国語・インドネシア語に訳され、各国で活用されている。また、ESDとSDGsの関連図等は国内各校がSDGsにも安心して取り組めるように勇気づけることができると考えている。さらに、本校のSDGs実践計画表は、文部科学省でも翻訳されている。今後、様々な機会に各国に提供され、共有され、SDGsの推進に貢献できるものと期待している。

(包摂性)本校では【学び合い・高め合う民主的な学校風土づくり】を経営の根本に据え、「誰一人取り残さない」という考えに立ち、指導観・評価観を「達成度目標」型から「方向目標」型に変えてきた。このことにより、一人ひとりが問題意識の共有を出発点にして、多様な視点から学び進め、それを相互に評価・共有するという学習のあり方を広げてきた。教師もその中であって、成長した一員として、子どもの成長を支援するようにしている。

(参画型)従来の教育では、子どもは「幼く未熟で教えられるべきもの」として扱われてきた。しかしそれでは、多様化し複雑化する未来社会の課題を克服できる人間を育てることはできない。そこで、子どもであっても、主体的・対話的な学習過程で学び、自ら考え、判断し、実践するような問題解決的な指導方法に切り替えてきた。また、「地域は屋根のない学校」と考え、地域の人や歴史・文化に学び、様々な関係機関と連携し「社会に開かれた教育課程」づくりを進めることで、成果を挙げている。

(統合性)本校の開発・活用している「ESDカレンダー」は統合的な教育そのものである。また、6年間の教育課程を通じて、SDGsで示されている全ての項目に対し、様々な学年を通じて繰り返し、主体的・統合的に取り組み、その成果を子ども自身が「八名川まつり」等の場面で自ら発信し、学び合っている。このような学びを通じて、児童の人間力が高められ、自覚と誇りをもった子どもが育っているのである。このため、学校内には学ぶ気迫と穏やかな人間関係が同居している。

(透明性と説明責任)本校では、保護者や地域・関係機関等に対して、研究も含め、常に開かれており、国内外からの訪問者も絶えない。この5年間で国内199校の先生方、26の教育委員会、190の関係省庁・研究機関・企業・NPO・NGO等、20件250名の海外からの来訪者を受け入れている。保護者や地域だけでなく、児童からもアンケート調査を行い、それらを教育の向上に向けて公開・反映させている。来校者への説明の度に本校教育の改善点が見つかり、教育が向上している。

#### 表彰の対象となる応募活動の今後の計画

① 日本の教育改革と同時進行的に世界へのESD・SDGsの発信に心がけ、教育の力でこの世界の持続可能性を高めていきたい。そのために自校の教育の活性化を図ると同時に、国内の各地域・各学校との連携・協力と、海外に向けた発信とに、リーダーシップをとっていきたい。 ② 持続可能な社会の実現は、教育界だけで解決できるような問題ではない。様々な省庁や企業等の進める様々な取り組みと学校教育との連携が絶対に必要である。ただ、それが相互の理解不足から教育現場で圧迫感を感じて終わることが無いように、また、実質的・本質的な深化として進められるように、学校教育の立場だけでなく相互の立場を踏まえて支援していきたい。これらの取り組みを通じて「持続可能な社会・世界・未来」の実現に貢献したい。

#### 参考資料の添付

あり  なし

#### 備考

(事務局使用欄)